

アオバズク *Ninox scutulata* (Raffles)

【選定理由】

夏期に丘陵地や山間部の里山環境、平野部の集落などに飛来し、通常は社寺林の樹洞で営巣するが、お寺のドバト用巣箱や大規模公園の鉄製構造物、公共施設の建屋内などでも営巣する。県内では2000年頃から平野部での繁殖がほぼなくなっており、丘陵地や山間地の繁殖も激減している。1990年代半ばまでは、フクロウ類の中で本種が最も身近で一般的な種であり、現在でも本種のホッホー、ホッホー、という鳴き声が、フクロウ類の声を代表している。

【形態】

全長29cm、翼開長66～76cm、頭部および顔は一樣な濃灰褐色で、羽角はなく虹彩は黄色。上面は一樣な濃褐色で、下面は白色で濃褐色の太くて粗い縦斑がある。尾は淡褐色で濃褐色の太い横縞がある。幼鳥は色が淡い。



【分布の概要】

【県内の分布】

夏期に平野部から丘陵地および山間部の林に生息し、繁殖する。

【国内の分布】

ほぼ全国に分布し、九州以北では夏期に生息し、南西諸島では周年生息する。南西諸島のものは、亜種リュウキュウアオバズク *N. s. totogo* に区分される。その他に、北海道などで亜種チョウセンアオバズク *N. s. macroptera* の迷行的な記録がある。

【世界の分布】

インド、ヒマラヤ、東南アジア、中国東部、朝鮮半島、ウスリー、日本で繁殖し、北方のものは冬期に南下する。

【生息地の環境／生態的特性】

4月下旬から5月上旬に渡来して、主に社寺林などの樹洞で繁殖する。日没後から夜間に、ホッホー、ホッホー、ホッホーと繰り返して鳴く。主な餌である甲虫、セミ、ガなどの昆虫類を空中や樹上、地上などで捕食する。秋の渡りは遅めで、多くは10月中旬から11月上旬頃に南方へ渡る。

【現在の生息状況／減少の要因】

1990年代半ばまでは、名古屋市内を含む平野部の都市周辺でも繁殖例は少なくなかった。現在も平野部で繁殖している例はあるが、極めて稀になっている。丘陵部や山間部での確認数も大きく減少しており、愛知県鳥類生息調査地点では1999年以降繁殖期の記録は皆無となっている。減少の最大の要因は夜間の人工光の蔓延により、餌となる昆虫類が消失していることがあげられる。現在も繁殖している環境は、夜間照明の少ない場所に限られている。

【保全上の留意点】

紫外線を出さないLEDの光源に昆虫が全く集まらない訳ではないが、白熱灯、水銀灯、蛍光灯、ナトリウム灯、メタルハライドなどと比較すればかなり少なくなる。既存の光源の多くは国内ですでに製造禁止、あるいは近い将来製造や輸出入が禁止となるが、特に野外の代替光源は最も昆虫の集まりにくいLEDを採用すべきである。

【特記事項】

近い将来、野外照明の大半が紫外線を出さなくなった場合、夜の野外は昆虫類をはじめ生息する生物の多くにとって、何十年か前の光環境に近くなることが期待される。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.97. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)